

登場人物

世話役の田村（在在所村の村長 消防団団長）〔男① 帝さかな衆〕
定食屋の杉本（簡易放水ポンプ・ノズル担当）〔男② 西の蟠龍 龍之介④〕
運送屋のシゲ（消防団副団長）〔男③ 盗賊 小屋主〕
レンタルビデオのカメ（地区広報担当・ホース・一番手）〔女① 龍之介① さかな衆〕
民宿のレイコ（高齢者児童避難誘導・安全係隊長）〔女② 銀三① さかな衆〕
保険代理店のキミ（ホース・二番手）〔女③ 女房 銀三② さかな衆〕
カラオケバーのシミエ（婦人会副会長 ホース・三番手）〔女④ 釣り人 銀三④〕
ベンリスパーのヨシコ（ホース・四番手）〔女⑤ 龍之介② さかな衆〕
文具・雑貨の店のシホ（吸水ホース担当）〔女⑥ さかな衆 銀三③〕
小型巡回バス委託運転手のアヤコ（障害物除去担当）〔女⑦ さかな衆 龍之介③〕

御在所村消防団 消防訓練の場（ダンス）

音楽の中サイレンの音

消防団の制服をまとった面々。

田村 現場着。火元、火点確認。
杉本 ノズル装着。
カメ 一番ホースよし。
キミ 二番ホース、装着。
シミエ 三番ホース、装着。
シホ 吸水ホース、設置よし。
シゲ 吸水開始。
田村 一番手、前進、放水開始。
杉本 放水開始。
レイコ 安全路確保。児童誘導開始。
キミ 二番ホース、ホースゆとりよし。
シミエ 三番ホース、ホースゆとりよし。
田村 火力上昇。
アヤコ 障害物除去。
シゲ 放水隊、後退。
カメ 後退、放水角度上げ。
田村 さらに火力上昇。
シゲ 火力上昇、放水隊、後退。

杉本 水力圧、上げ。
レイコ 児童誘導中。けが人なし。
キミ タンカ隊。老人運搬中。病人異常なし。
田村 鎮火。
シゲ 撤収。
杉本 吸水ポンプ止め、よし。
シホ 吸水ホース回収。
カメ ノズル外し。ホース撤収。
キミ 二番ホース外し、撤収。
スミエ 三番ホース外し、撤収。
レイコ 児童無事誘導終了。
シゲ 老人運搬終了。

一同並ぶ

田村 本日は防火訓練にご参集くださいまして、真にありがとうございます。これを持ちまして、御在所村消防訓練も何事もなく無事終了いたしました。年々このような訓練にも集まるのが容易ではなくなりまして、今日は祭りの奉納芝居と同時にしてみようべということになりました。これを前例とせずということで今年限りのことですので一つご了解いただきたいと思っております。

御在所村の奉納芝居の舞台、開演の準備。

舞台中央奥、三方にわらで作られた小さな龍

舞台中央に賽銭箱

田村 御在所村の村長の田村でございます。本日はこのようなところへお越しくくださいまして真にありがとうございます。準備の合間を借りまして、御在所村の世話係として一言、ご説明申し上げます。十二支の「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」。昔、十二支の中に入っていた「龍(辰)」は、その昔他の動物と同様にこの世にあって、楽しく暮らしていたそうであります。ところが「子、丑、寅…」のねずみの奴にのせられまして、人間に姿を変えた仲間の龍のナマ首を食べて大暴れしたということで、とんでもねえと神様がこの世から外してしまっただけのことです。それからというものねずみの奴はカミナリが鳴ると「龍が来た、逃げろ！」って逃げ回り、お天道さまの陽の光りを嫌って、明るい所に出てこない。いつも薄暗いところをウロウロ這いずり回るようになったということでもあります。で、今でも龍の奴は、行くところなして自分の存在が忘れられるのが怖くてですね、何かの折に暴れるんだそうです。そんな龍のことを静めますべと、年に一度この下北半島の六ヶ所村にほどちかい私共の御在所村では、イタコさんがここに集まりまして、この神社の境内で奉納のお芝居を続けてまいりました。このちっぽけな龍神様の社にはその昔、龍が大きくなるたび脱皮した龍の脱け殻が御神体として祭られているというこ

とありますが、嘘か真か開けたものは一人もおりませんです、はい。この奉納芝居の起源は弘前大学の先生の研究では、なんでも今から千二百年程前の天長元年、西暦で申しますと八百二十四年だそうでございますが、当時日本は雨降らずの大干ばつがありまして、空海と守敏（しゅびん）という大層えらい二人の坊様が、京都の神泉苑というところで龍を呼び出す雨乞いの法力合戦をいたしまして、空海が大雨を降らせて民百姓を救ったという話が、京都からこんなへんぴな所へも流れてきてかたちを変えて、根づいたもののように、いまでもこのように細々と続いております。途中、演じる者が入れ替わるのも脱皮を表しているといわれますが、これもはつきりしたことは…それで「イタコ」というのは神おろしの人らのことです。今では大変少なくなりまして、御在所村の消防団の団員が中心になって執り行っているしだいです。いつの世も最後は神頼み。おかげ様で過疎の村で先行き真っ暗でしたが、核廃棄物備蓄の大型基地やら再処理工場の建設でこの時節柄でもなんとかうるおっております。さらに、こちらのシゲさんの熱いご提案を受けまして御在所村は「止める」「冷やす」

「閉じ込める」を合言葉に、高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定の調査候補地へ応募、手をあげることにいたしました。文献調査だけで村や町と周辺自治体に、年間十億円の交付金が出る。調査だけでお金をいただける。ありがたい制度でございます。電気なくして生活は成り立ちません。それと、この下北半島では昔から言い伝えがございますして「天の気」、つまり空の「天」ですが「天の気」というエネルギーがございますまして、その通り道のことをこれを「龍脈」、龍という字に山脈の脈の字を書きますが。「龍脈」とよんでおります。この「天の気」のエネルギーの道筋、今言う活断層、龍脈が真北の北海道の方よりまいりまして、まさかりの形をした青森県下北半島、恐山より入りましてむつを通って冷水峠、金津山、八郎烏帽子を通って六ヶ所をくぐって小川原（おがわら）湖へと抜けていると言われております。小川原湖は日本で十一番目の大きさ、十和田湖よりワンランク上でございます。で、この村のある位置が丁度、龍の膺のあたり一番エネルギーの溜まるところの龍穴（りゅうけつ）というところにあたるのでございます。では、ネズミの話に乗せられて東の蟠龍に首を食べられた西の蟠龍、それで干支、十二支の中にあるにも関わらずこの世から外されてしまった龍の物語、ひとつまいります。 （大太鼓の音）

その巻『西の蟠龍の場』

女① 謹んで下北の龍神さまに御奉納申し上げます。

女⑤ これは昔の話でございます。

女② 謹んで下北の龍神さま、暴れねえよに、

女④ 一つ口説きを御奉納申し上げます。

女③ その昔、都に守敏僧都（しゅびんそうず）というえらい坊様がいたそうで、

女⑥ 守敏さんはそこら中の龍を集めて壺の中に閉じ込めた。

女② 壺の中に閉じ込められた龍神さまが天さ登ってけねえで暴れたら、

女⑦ 地割れで宮柱が倒れる、宮柱が。

女③ 静めます。お静かに願います。

村人衆 ♪ (歌い踊る) (民舞一)

わしらの口説きは 思うよにいかぬ

いかんところは 皆様たのむ

いたこ暮らしも 数えていくつー

さあーさ これから

さあーさ これから なに口説きましよー

文句悪いのは 師匠もたぬため

声の悪いのは 親からゆずられ

昔思えば うらめしでござる

なぜ二昔は

なぜに昔は 今にない

女① 帝の女房は男好き。

女⑦ 水に映りし月の影

女② 知らぬは亭主の帝ばかり。

女⑥ 都はうわさの花盛り。

女④ 桜まい散る花吹雪、風に乗って帝の耳に。

女⑤ 雷の鳴り響くなか、盗賊の笑い声。

雷の鳴り響くなか、盗賊の笑い声がこだまする。ひづめの音(殺陣)

盗賊 (笑う)

女房 アレッ！ー

帝 だれか！ まろの妻が、まろの女房が盗賊にさらわれたじゃ。どうか助けてたも！

女⑥ 馬にまたがり盗賊が、若い女をこわきに抱きかかえ大きな屋敷から連れ去ろうとする。

帝 お願いじゃ。わざわざ遠い国からやつともらったまろの嫁を。だれか！ー

女① 助けを求める帝の声。

帝 あーお願いじゃ。どなたか！ー

女⑦ させてはならじと蟠龍が。

女衆 ばらの花でも 色好く咲けば

痛いながらも 手をかける

西の蟠龍 まで！ー

盗賊 (暴れる馬を操りながら見回す) ん？

西の蟠龍 (追いついた) まで！ー

盗賊 んーん？

西の蟠龍 グア！ー

盗賊　　なんで、主は？
西の蟠龍　おいらは、西の蟠龍。
盗賊　　ほざけ、いも虫だろ。
西の蟠龍　西の蟠龍。
盗賊　　龍？でっ？
西の蟠龍　乱暴狼藉は許さん。女を離せ！
盗賊　　さるすべりの花でも積んで遊んでな。
西の蟠龍　だまれ！

女⑤　　男の身分を問うたれば
盗賊　　小さい時だば青鼻たらし
女②　　七つ八つになるならば
盗賊　　寺小屋帰りのしらみとり
女④　　十七八にもなるならば
盗賊　　あちらの姉さんの尻さすり
女衆　　こちらの姉さんの袖引っ張る
女⑦　　蟠龍、帝の女房、人間のおなごにほれた！
女⑥　　蟠龍の初恋。
女衆　　初めての恋！
西の蟠龍　今僕が助けます。
盗賊　　盗賊、めんどろとばかりに一鞭。
西の蟠龍　もたもたしてると日が暮れる。しやらくさい。パシッ！
西の蟠龍　あっ！
女①⑤　　地べたにベチャリ！
女②　　蟠龍あえなく叩き落とされて。
女⑦　　くっくと落ちながら見上げれば
女⑥　　若い女のさげすみ哀れむ視線がこれ又…
女①④　　ピシヤリ！
西の蟠龍　くっ…
女衆　　盗賊。
盗賊　　(笑う)
女①　　高笑いの後
女⑤　　女を抱え直すと馬に一鞭。
盗賊　　ヒヒーン！
女房　　馬まで後ろ足でなく。
女②　　前足で弾き飛ばすのおまけ付き。
西の蟠龍　あっ…
女衆　　去っていく。

女衆 ♪

切ない思いの胸のうち
きつと夕空ながむれば
遠くにカラスが飛んでいる
無情に響く寺の鐘

女衆 明けて翌日 空も晴れて(町衆が集まり)

男③ オオーイ、大変だ！

女② 賽の河原に女の死体が上がった。

女④ プカプカと浮いてるんで、びっくりして引き上げた。

女③ 手足ちよんぎられたおなこの死体よ。

女⑥ ばらばらにされて流されて。

西の蟠龍 エエッー！

男③ それを見た。なんともひどい話があったもんだ。

女③ なんともむごいことだ。

女⑤ ずたずたの滅多切り、遺恨の果て。

女⑥ なんでも女の亭主、帝が大勢の家来を引き連れ盗賊を追い詰めたところ、盗賊はもう
ここまでと観念したのか、切られる前にと女を殺してしまったと。

女⑦ あららら、りゃー。

女② ところが、屋敷の女中の話じゃ、ちよと違う。

女① 違う？

西の蟠龍 え？

女② 女は亭主に殺されたということだ。

女③ そんじゃ、亭主が女房を。じゃ！…

男③ できてたつていう噂だ。

西の蟠龍 できてたつて？

男③ 盗賊と女房がさ。

女① どこにでもある話だ。

女⑤ で、盗賊は？

男③ 逃げた。

女衆 逃げた？

男女衆 あーあ！

西の蟠龍 ああ…

帝の笑い。うちひしがれる西の蟠龍

女① 守敏僧都のつぼから逃れた西の蟠龍。

女② 役立たずの蟠龍。人生についての迷い道。

男女衆 ♪(民舞二)

- 一つ ひとつ豆 転ぶも道理
- 二つ ふたつ豆 並ぶも道理
- 三つ 味噌豆 煮られるも道理
- 四つ よこれ豆 洗われるも道理よ

男女衆 ♪

おらの生まれは 深山でござーるー

親がなければ 十二の歳に

売られましたよ あちらこちら

金は五両で

金は五両で 五年の年期…

女① 一人とぼとぼと歩く龍。

女② ある日、そんな西の龍の姿を見て、そこでねずみは考えた。

釣り人 十二支の動物の中で一番始めにネズミの名前があるのに。何で龍みたいに空を飛ぶことができねえ。ああ情けねえ。もたもたしていると龍にこのトップの座を取られてしまう。

男① 悩み事はないか

男③ 悩み事は解いてあげるが

男衆 いかが。

女⑤ たどりついたら鴨川の

女⑥ そこに釣り人現れる。

釣り人 どないしはったん？

西の蟠龍 えっ？

釣り人 こんなところで、何してはんの？

西の蟠龍 いいえ…。

釣り人 何か悩んではんの？

西の蟠龍 実はかくかくしかじかこういう訳、自分が何の為にこうして生きているのか分からなくなってます。

釣り人 なるほどよう分かりました、私があんたはんの力になりましょう。

西の蟠龍 えっ。本当ですか。ありがとうございます。

釣り人 ええか、この竿の先に糸がついとります。その糸に「うき」ちゅうもんが付いとります。その先には「針」ちゅうもんが付いてんにや。おまはんが腰掛けるにはええかっこやな。ほんだからおまはんは、そこに腰掛けてみはったらええのや。私がこの鴨川にそおと水の中へおろしまっさ。ほんだからおつきいさかながぎようさん寄つてきよるわ。

西の蟠龍 その魚が教えてくれるのですね？

釣り人 おまはんは近よって来た魚に「一口召し上がれ」といわはったらええのや。

西の蟠龍 はっ？

釣り人 あんた人生に迷よってはるんやろ、答えをさがしてはるんやろ。

西の蟠龍 ええ。

釣り人 「一口召し上がれ」 いえますか？

西の蟠龍 「一口召し上がれ」

釣り人 ぜったい針から身を離れたらあきまへんで。

女⑦ 離せば答えは見つかりまへんさかいな。

西の蟠龍 いわれるままに西の蟠龍、針に座ってしがみつく。

男衆 川の中へ下ろされて、ゆっくりブクブク沈んでく。

西の蟠龍 ああこれで、答えが見つかる。なんて親切な人がいるものだ。うわー、本当に魚が集

まってる来た。一口召し上がれ…

男衆 鯉や鰻が遠巻きに。

西の蟠龍 一口召し上がれ。…一口召し上がれでござい。

さかな衆 ♪

何だこいつは 一体何だ

毛虫の仲間か いも虫か

蛇の子供か トカゲのしっぽ

声のよいのに 歌わせて聞くか

夏の盛りの せみの声

西の蟠龍 龍です。…龍。…西の蟠龍です。

さかな衆 ……

西の蟠龍 人生の答えを捜しております。

さかな衆 ……

西の蟠龍 一口召し上がれ。いかがでしよう？

さかな衆 ♪

面白がって 亀さんが

水草やつこらさと 引き抜いて

蟠龍の首に 引っかける

さかな衆 ほりゃ！

西の蟠龍 あっ！

釣り人 それっ！

釣り糸の動きに、あわてて蟠龍しがみつく

さかな衆 ♪

祭り囃子が 社にひびく

あまた神々 舞遊ぶ

釣り人 ちえっ！（ヒュツとばかりにもう一度、蟠龍水の中に戻される）

さかな衆 ♪

こいつは いいわい面白い

魚や亀が 戯れる

西の蟠龍 一口召し上がれ。

男衆 ♪

蟠龍の願い 無視されて

我も我もと 遊びだす

ほれっ！

さかな衆

西の蟠龍

！

釣り人 そらっ！

西の蟠龍 一口召し上がれ。

さかな衆 そりゃ！

西の蟠龍

！

釣り人 これっ！

西の蟠龍 一口召し！

釣り人 よいしょ！

西の蟠龍 一口あがれ！

さかな衆 一度二度ならいざしらず、余りのことに釣り人が。

釣り人

なんや遊んどんのかいな。どういうつもりで針にしがみついとんの、ほんまに。魚にくわれてほんで答えがみつかるんよ、ゆうてんのに。何やねんな真面目に考えてはん

のか？ どないなつとんのじゃ！ こらなあ仕事なんやど！

一口召し上がれ！

西の蟠龍

釣り人 あほか、こうしたるわ！ ペシッ！（地面に叩きつける）

西の蟠龍 アアー！

男① 釣り人は言うが早いか

男③ 蟠龍をつかむと

男① 地面にいやっというほど叩きつける

男女衆 蟠龍はずんでそのまま水の中。

男女衆（民舞三） ♪

流れる流れの その中で

もう一度 魚に聞いたとき

すると魚の いうことにや

水から生まれて 水に帰る

踊れ踊れとわしせめて
わしが踊ったら誰せめる
潮の流れに身をまかせ
いつか時は流れ行く

女③ 川から海へと流されて、流れ流れていく先は。対馬海流どこまでも。

女① 西の蟠龍は北の果て下北半島の方まで流された。

女② なんともかんとも、みじめな話だ。

女⑥ その後のことは誰もしらねえと。

女⑤ そんなものだ世間とは、いつか地面の下となる。

男女衆

二月三月花盛り

うぐいす鳴いた春の日に

楽しい時も夢のうち

その二『龍之介となるの場』

女⑦ そんなこんなで地面の下で、幾ばくかの年月を過ごした西の蟠龍の奴は、すっかりこのころの中がひっくり返って神さまに願掛けしたそうさ。

西の蟠龍 龍を辞めて人間になりてえ。おねげえします。こんな惨めなのはいやだ。龍を辞めて人間になりてえ。人間ならいいことあるに違いねえ。おねげえします。

女⑥ すると天の神様は、その願いを叶えてやった。西の蟠龍はその姿を人間に変えてもらい、それも何通りもの人間に化けられる仕事だといって、役者になったそうさ。

女⑤ それにもしん景気の下北半島、芝居小屋の役者になったそうさ。

男女衆 ♪

五つ 炒った豆 帯する道理

六つ むけた豆 はだかも道理

七つ なった豆 なかよい道理

八つ やけた豆 にかいも道理よ

男③ 昔はニシンだなんだとえらい景気だったとか、そんななつかしい時代の下北半島のあるところに芝居小屋がどーんとおったった。

男① 景気があつての芝居小屋。

男女衆 ♪ (じょんがら節の一部を歌い踊る)

女② 何通りもの人間に化けられる仕事だと、西の蟠龍を役者にしたそうさ。

女③ 西の播龍の生まれ変わり、名を龍之介。

女④ 役者の龍之介。

女衆 あれっ！

男① んで、それが西の播龍の生まれ変わりの役者というのは不思議な運命というものを背に担いでいた。

男② 誰でも運命というものを背に担いでいるもんだ。

男③ その芝居小屋の屋根裏に、東の播龍が住み込んでいた。そいつのせいだかなんだかしらねえけども、龍之介の運命という荷の紐がゆるんじまって、人気がいまいち。そこで龍之介がまたしても神に願掛けした。

女⑤ するとそれを聞いた、屋根裏の東の播龍。

男② (東の播龍) 西の播龍の龍之介さんよ。

男③ こりあ天の神様の声。へえー！

龍之介① (東の播龍) 役者になったはいいが芸はどうするよ？

男① 芸？ 芸と申しますと？

龍之介① (東の播龍) ああ、歌ったり踊ったりの芸事の芸だよ。

男④ それは…

龍之介① (東の播龍) 人間に変えてくれとは頼まれたが、芸のことまで頼まれなかった。

男② あっ。

龍之介① (東の播龍) 交換しようじゃねえか龍之介さんよ。取引だ。

男① 交換？ 何と？

龍之介① (東の播龍) お前さんの体の一部とさ。

男③ えっ！？ 体の一部。この体？

男女衆 (東の播龍) まず足を。

男女衆 渡してしまった！

片足切り

男女衆

親の意見となすびの花は

千に一つの無駄がない

アリヤー一つも無駄がない

男② その龍之介の弟子に、ねずみの銀三！

女⑦ またしてもねずみ。その名を銀三。

男③ そりや大変器用な男で。

龍之介① 足が、足が！

銀三① 師匠、どうか気を落ちつけてくださいまし、足の一本やそこら。命あつての役者じゃないですか。

龍之介① 一本やそこら。銀三！

銀三① すいません！

龍之介① なんてお前の足でなくおいらのなんだ。くっ、代われ！

銀三① そんな！… 師匠の為、なんとか。
龍之介① なんとか？

銀三① 任せてください。からくり人形のようなりっぱな足をおつくりいたします。では寸法をお計りします。

龍之介① それで、今まで通りやれるか？ 舞台に立てるか？

銀三① 大丈夫ですとも、任せてください。

龍之介① 舞台の上でかしいだりして、みつともないぶざまな姿勢するのはごめんだ。

銀三① まあ、今までと全く同じとはいかないでしょうが。なんとかやってみます。

龍之介① そうか、すまない銀三。恩に着る。

銀三① 龍之介師匠もつたいない。

龍之介① 銀三！

銀三① 師匠！

音楽 作業 銀三が片足を作る。(ダンス)

女③ 人間そうあきらめたものでもねえな。

男① 銀三に作ってもらった片方の足っこ付けて。

女④ 舞台に立って歌ったり踊ったり。

男③ それがまたえらい評判になって、客がどっと押しかけた。

女⑥ 龍之介の日々の精進、さすが龍の生まれ変わり、屋根裏でうずくまってる東の龍とは大違い。

男女衆 さすがは西の播龍の生まれ変わり、龍之介！

龍之介①、銀三① ♪ (「決闘・高田馬場」の二番のような感じで歌い舞う)

女⑦ しかし、人間の欲というものはなかなかのもんで、膨らんだ欲は縮むことがなくなつて、もっと人氣が欲しくなつた。

女⑤ あれ、人間の欲つてか。

男② 残った足も差し出した。

足切り

男女衆 残った片方の足も、ズッポリと渡してしまった！

男② 両の足がなくなつた。

女④ 龍之介師匠！

龍之介① 残りの足が、足が！

銀三① 気をおとさねえでしつかり！ 足の二本やそこら。

龍之介① 二本やそこら！ 人の事だと思つて、銀三！

銀三① すいません！ 師匠さえよければ、もう一本の方もなんとか。

龍之介① なんとかなるか？ 舞台に立てるか、銀三。

銀三① 寸法を。(寸法を計る銀三)
龍之介① : 銀三、どうだろう。少し長くしてみようと思うが?
銀三① えっ?
龍之介① 足の長さ:
銀三① は?
龍之介① この際だ。少し欲張って、駄目で元々。駄目元だ!
銀三① そうすりゃあ振りが大きくなってお客さん方も喜びます!
龍之介① ぐっと、ふんばりが利く様に作っとくれ。
銀三① へえ! なんとかやってみます。
龍之介① 銀三!
銀三① 師匠!

音楽作業 銀三が両脚を作る(ダンス)

男③ 龍之介の体に合わせて、下座のお囃子衆も間合いをあわせる。
女⑤ なんとかかんとか、やりくりつける。
女③⑥ さすがだ見上げた、たいしたもんだ。
男① それだけじゃねえ。小屋主さんは舞台の道具の寸法大きさまで、なにからなにもかも龍之介に合わせて作った。
女⑦ そんな舞台を一目見ようと、大勢さんが押しかけてやんやの拍手。

龍之介①、銀三① ♪ 「決闘・高田馬場」の六番の後半のような感じで歌い舞う)
男女衆 よ、龍之介!

女⑦ 客は始めのうちは同情の気持ちもあった。
女⑥ んでも本当は
女⑤ 龍之介の芸を見にくるんでなく
女④ いつ倒れるかいつころぶのかと。
男② その時、どんなぶざまな姿を晒すか見たがった。
男① 人の不幸は蜜の味。あらー。
女③ ある日、龍之介が道具の角につまずいてつんのめるようにして舞台を転げた。
龍之介① あっ!
銀三① 師匠!
龍之介① (ゴロゴロと転がり、なんとか立った):
男女衆 おっ! 立った!

拍手と歓声

男③ 立ち上がった師匠に、割れんばかりの拍手。
女③ おお、人間なかなか。

男女衆
すてたもんでねえなあ。
龍之介①
！…へへへ、そうかい。そういうことか…
男②
龍之介
これに気をよくして
男①
ここぞというところだ
男②
ちよくちよくそれをやりだした。
男③
師匠。
銀三①

ブリッジ 龍之介①銀三① ↓ 龍之介②銀三②

男女衆
オットット。コットット。
男③・客
なんでなんで、うけを狙ってんじやねえのか？
龍之介②
！…
銀三②
師匠。
男②・客
なんだ、昨日もここでこけたっていうぜ。
男①・客
客をなめてんのか、真面目にやれ真面目に！
男③・客
うけ狙いなんかすんじやねえよ！
男②
くたばりぞこない 死にぞこない
女②
舞台袖から周りの役者 失敗しないかながめてる
女④
んだべ そうだべな
女①
役者の龍之介 意地になる
女⑥
無理もねえ んだべな
女⑦
龍之介、出の前の舞台袖。
男②
綱元に揺れる身体をぐにやりと預け
男③
前後左右に ヨタヨタ グニヤグニヤ
男女衆
きつと舞台をにらみつけ。
男①
なじよたてろ
女④
極楽の飲み屋とかけて 何と解く？
女①
極楽の飲み屋とかけて…「くじら一匹 串焼きと解く」
女②
そのころは？
男②
そのころは？
女①
見たもの 誰もねえ
男女衆
(笑う)
龍之介②
(笑う) …、俺をあざ笑うがいいや。なんのこれしき！
銀三②
危ない！
龍之介②
そんじよそいらの腐れ役者と一緒にされて、たまるか。
銀三②
大丈夫ですか？ 師匠。
龍之介②
何、死にぞこないだ？ フン！ 人間いつかはくたばるんだ。生まれも死ぬも一人きり。
銀三②
きっかけです。

龍之介② ええい、手を出すな！俺はな。
銀三② そこ、つかんじや袖幕が破れちまいます。
龍之介② 田舎者に、俺の芸の価値が分かってたまるか！
銀三② 気をつけて、衣装の裾をふんできます。
龍之介② あざ笑うのは、客か俺かどっちだ銀三！
銀三② 師匠！

ぶざまな姿をさらす龍之介

男③ 見たか見たかい。龍之介の気迫はこれまたすごい。えらいものだ、たいしたものだ。
男② とはいうものの、互いに顔にはださねど腹の中。ニタニタ笑って周りの役者は眺めてる。
男① 一度ゆるんだ運命は戻るに戻れず。
女⑥ 縛るに縛れず。
女⑦ まったくだ。
女① 欲の皮が突っ張った。
女② 神も仏もあるものか。
男② サルの木登り、鯉の滝登りではないけれど、身体さ欲がはい昇る。
男① 天の神に、人氣が欲しいとまたまた相談ぶったれば。
男③ 命が紙より、薄くなり。クモの糸より細くなる。
男女衆 さらに身体さズッポラ 差し出した！

体切り

女衆 なんと！
女⑦ 腕もなければ
女⑥ 首だけだ！
男③ 首だけだ！
女④ 首だけだ！
龍之介② 身体が、身体が！
銀三② 師匠！
龍之介② 銀三、首だけになっちまった！
銀三② 師匠、気をしっかり。
龍之介② 首だけ。
銀三② 身体がなくなっちゃって。
龍之介② 身体がなくなっちゃって！
銀三② あっ！
龍之介② 銀三、身体だよ。身体だ。分かっているのか！
銀三② すいません！

その三『龍之介、首だけとなるの場』

龍之介② 首一つ、首だけになっちまった。銀三！

銀三② なんとかやるだけやってみて。

龍之介② やるだけやってみてとは、どういう事だ！

銀三② やります！ なんとかします。やってみようと思います！

龍之介② 飛んだり跳ねたり出来るんだろ？ 銀三！ 思いますじゃ困るんだよ。 思いますじゃ！

銀三② 今までと同じとはいかないでしょうが！ なんとか！

龍之介② なんとか？ 銀三、銀三頼む！ 銀三お前が頼りなんだお前だけが。

銀三② でも師匠！

龍之介② 銀三！

音楽 作業 銀三が体を作る。(ダンス)

女④ あれよあれよといううちに

男③ 首から下がなくなつて

女⑥ 並の奴ならあきらめる

男② この龍之介はちよと違う

女⑦ やじった客への恨みがいっぱい目一杯

男① 悔し涙の腹いっぱい

女② 思いの丈が眼を開ける

女① きつと見上げる 簀子の高さ

男② 下見りや奈落の 暗い闇

女④ 袖の役者が 人の不幸をニタリと笑う

女①② かわいがられて 今死ぬよりも

さすられなせられ 長生きしたい

めんこがられて まめまめと

龍之介が所作をするが思うように動かず。

音楽 作業 銀三が体を作り直し。(ダンス)

龍之介② …まだ、出来ないのか銀三！

銀三② へえ。

龍之介② 銀三、銀三！

銀三② へえ。

龍之介② 首から下を足と同じように。

銀三② 実は、…

龍之介② どうした？
銀三② すいません。
龍之介② 謝ってどうする、銀三！
銀三② 申し訳ありません。どうしてもうまく…
龍之介② なぜだ！ お前の腕ならどんなものでも作れる。作れ、銀三命令だ。作れ銀三！
銀三② 勘弁してください。申し訳ありません！
龍之介② …ようし、それならこの俺の首を抱えて舞台に立て。
銀三② ええ！…
龍之介② この龍之介の性根のあるところ、しつかと見せてやろうじゃねえか。世間の奴らあつ
といわせてみせようじゃねえか。
銀三② まさか…

銀三② ♪ (銀三の手の上に龍之介の首 十三の砂山の一部を歌い舞う 民舞六)

女① 人形浄瑠璃じゃなけれども
女② これには世間がびっくり
男① たまげた おどろいた
男③ おそろおそろ 舞台を見れば
女④ 舞台の上には 龍之介の首だけ
女⑥ それを銀三が抱えてる
女⑦ いきなり龍之介の首が喋りだす
男女衆 まるで獅子頭！

立ち回りと歌 (「俵屋玄播」の二番の感じで歌い舞う)

龍之介② ♪ (歌い舞う)
男女衆 めずらしさが、客を呼ぶ。
龍之介② (笑み)
銀三② ♪ (歌い舞う)
男女衆 ざまあみろと笑うは龍之介。
龍之介② ♪ (歌い舞う)
男女衆 ♪ (歌う)
龍之介② 銀三② ♪ (歌い舞う)
龍之介② ♪ (決める)
男② 時もたてば、あきもきて。
男③ 次は冬となりにけり。(キが入る)
龍之介② …

ブリッジ 龍之介②銀三② ↓ 龍之介③銀三③

男① 首を持つてる、黒衣の役者。ちつとはせりふに合わせて、あっちこっちとはでに動かしたらどうだ。てめえは田んぼのかかしか、このぼけなす！
銀三③ ……
男③・客 おおう！ そっちの方ばかり見せないでこっちの方にも向けてみる！
男②・客 年がら年中同じことやってんじねえよ！ 放り投げるくらいのことやってみせろ！
銀三③ ……
龍之介③ 銀三、客のいうことなんかほつとけ！
銀三③ でも…
龍之介③ おいらの弟子だつてこと忘れるな。
銀三③ ほんの少しだけ。
龍之介③ 馬鹿野郎！ 頭のいう通り動くのが身体だ！
銀三③ でも、お客様がああいつてさわいでますし…
龍之介③ 銀三、銀三、銀三！…
銀三③ 申し訳ありません！
龍之介③ なぜだ、このせりふで一体こつちへ向くというのはどういうことだ！
銀三③ すみません！ お客様が…
龍之介③ 一人前のせりふを吐くんじやない！ 客はな、おめえの芸なんか見に来るんじやねえんだよ。客は俺の芸に銭を払いに来るんだ！ まだおめえには十年早い。黙っておいらのいうとおりにやってみてやい！
銀三③ ですが…
女②・客 何をぶつぶつ首といい合ってる。少しぐらい乱暴に扱ったつて壊れやしないよ！
女①・客 どうした、もう少し揺すってみな！
男③・客 鼻摘んでみる。どんな声になるか、やってみせろ！
龍之介③ 銀三、ほつとけびくびくするんじやない！
銀三③ わかってるんですが…
龍之介③ 弟子は師匠のいうことだけ耳にいれればそれでいい！
銀三③ へい！
龍之介③ 馬鹿！ つばきを飛ばすんじやない！
銀三③ すいません！
龍之介③ 銀三、銀三落ちつけ落ちつけ！ 汗をポタポタ垂らすなみつともない！
銀三③ 分かってます！
龍之介③ 分かかってないよ！ 一步前だ！ 見栄を切れ！ トンと出ろ、今だ！
銀三③ へえ！
龍之介③ そっちじやない！ 下手だ。銀三落ちつけ！ 後ろに腰を引いて、トンと大きく勢いよく回れ、それっ！
銀三③ 汗ですべった！
龍之介③ 馬鹿！
銀三③ ああー！
男①・客 すべった銀三！
女①・客 思わず放り上げた龍之介の首が宙に舞う！

男③ 驚く、龍之介！
龍之介③ ウアアー！
男②・客 首が舞台の花道をゴロゴロ転がる！
男女衆 ゴロ・ゴロ・ゴロ！
銀三③ あっー！
女③・客 カツと目を開いたまま！
女④・客 龍之介の首が舞台から転げ……
男女衆 落ちる！
那須の余市は よいそれな
扇の的に 一矢をいれる
銀三③ ええっ！
上手の客 ギャー！
下手の客 ウワー！
女①・客 客はびっくり驚いた！
龍之介③ 銀三！
男①・客 気味が悪いと逃げ回る！
銀三③ 師匠！
女②・客 足元転がる龍之介！
龍之介③ 助けて！
男③・客 あっちへ行け！ こっち来るな！
男女衆 と、蹴っ飛ばす！
銀三③ 師匠！
龍之介③ 助けてくれ！ー下駄でけられた！ 銀三！ー
銀三③ すいません！ どちらさんも、乱暴はしないで下さい！ 踏まないで！
女④・客 男は女にいとこ見せたくて！
女⑤・客 ちから一杯ふんずける！
上手の客 ホリヤ！
龍之介③ 銀三！
女③・客 女は男の手前もあつて！
男②・客 金切り声を張り上げる！
下手の客 アレッ！
銀三③ 師匠！
男①・客 子供は棒でつつき回し！
女①・客 年寄りや杖で引っぱたく！
龍之介③ ばばあ！ なにしゃがる！
銀三③ 杖で叩かないで！ 蹴飛ばさないで！
上手の客 このやろ！
下手の客 ほりあ！
男③・客 これっ！
龍之介③ 痛て！ 足蹴にしたな、覚えてろ！

銀三③ やめてください！
女④・客 こっち来た！
男③・客 それっ！
龍之介③ うああ！助けてー！
銀三③ 師匠ー！

男女衆 ♪

何の因果かしらねども
地獄の釜ゆでさもあらい
針の山でもあるまいに
何でわしだけ身の不幸
人の足蹴にさらされし
天を仰いで 癩の種
見下げる舞台を上に見て
足で踏まれる 身の不運

女② 龍之介かかえて逃げ回る
男③ 怒鳴る気力も失せるほど
女⑤ 紫色にはれあがる

銀三③ 銀三、瀕死の龍之介の首を抱えて舞台から楽屋へ！
男女衆 師匠！楽屋です！安心して下さい、もう大丈夫ですから。どなたか、お医者さんを早く！お願いします。お医者さんをお呼びください！お願いします。私は舞台に戻りまして、お客様にお呼びを。師匠のこと、よろしく！

女④ 再び舞台へとって返す銀三！
男女衆 ざわめく客席 両の手ついて
男② これでおいらは二度と舞台に立てない
女③ 目の前真っ暗！
男① 何と間の悪い人生なのだとかちびる囁めば

男女衆

西か東か 身は白波の
漂う海原 果てもない

銀三③ 御静肅に！どうか御静肅にねがいます！…只今は、私の不手際でお客様がたに多大な大変なご無礼をいたしました。誠に申し訳ございません！…私の舞台生活も、もはやこれまで、（出刃を取り出し、腹きりを）責任を…

男③・客 えらい！
男②・客 よくやった！
女④・客 日本一！

拍手と歓声

銀三③ ええっ！…

女①・客 おひねりが、銀三に向かって投げられる！

銀三③ お花を！ ありがとうございます！ おそれいます。はい、がんばります。ごひいきよろしく。ありがとうございます！

女⑤ なんとも かんとも

男① びっくりぎょうてん

女③ 銀三さん

男② 飛び交う花を押し頂きながら、銀三必死に考える。

銀三③ …客はおいらがわざと龍之介師匠を転がしたと思っっているんだ。不思議だ、今まで師匠の舞台でも、こんなにも客が沸いたことなどなかった。こりゃ一体どういう事だ。

：

男女衆

岬の上に灯台ありて

灯台よりも 下見おろせば

下は渦巻く 汐けむり

女④ 龍之介の顔は腫れ上がって紫色になってしまったが、持ち前の気の強さが幸いして

か一月もせずに元の顔に戻る。

女① さすが龍の生まれ変わり。

女② その首の前で只々ひれ伏す銀三。

龍之介③ …銀三。

何か？

龍之介③ あの歓声、この間の客の喜ぶ声をお前さんはどう聞いた？

銀三③ ええ。

龍之介③ ええ、じゃ分らないよ！ どうなんだ？

銀三③ 申し訳ございません。

龍之介③ 銀三、銀三。いいか客の喜ぶのをお前は聞いたろ！ その目で見たろ。

銀三③ すみません！

私はね、お前に抱えられて舞台から楽屋。ゴロリところがされ医者を待つ間、この座布団のうえでハッキリと、客の歓声をこの耳で聞いた。大喜びのやんやの拍手と歓声。

声。
師匠！ 申し訳ございません！

銀三③ (間) どうだ銀三、あれを一つ舞台に乗せようじゃないか。

銀三③ ええ！ といいますと？

龍之介③ …おいらを転がすんだ。

銀三③ えっ！！

龍之介③ 但し、舞台から下に落ちたら、命が幾つあったって足りはしない。舞台の框の所落ちないぎりぎりのところで、止める。

銀三③ ぎりぎり止める？ 転がすんですか、私が？！

龍之介③ おいらが転がるんだ！ そして舞台框の縁でくつと見栄を切る。

銀三③ 師匠！

女衆 娘島田にちようちよがとまる

男衆 とまるはずだよ

男女衆 花だもの

女①・客 転がる度に歓声だ

女②・客 龍之介！

男女衆 ゴロゴロ！

男③ 龍之介！

男女衆 ゴロゴロ！ 龍之介！ 龍之介！

女④ これまた連日 大入りだ

男② 時もたてば、あきもきて

男女衆 またも冬となりにけり。

男①・客 どうした！ もつと勢いよく遠くから転がしてみろ！

龍之介③ ……

銀三③ えっ！

男②・客 そうだ！ 高い銭出して見に来てやってるんだ！ 何とかしろへぼ黒衣！

男③・客 どうした、どうした！ 女がカボチャ転がしてるみてえじゃねえか！

龍之介③ 銀三、気にすんじゃないよ。ほっときゃいい！

銀三③ へえ。

龍之介③ 銀三！ 少し距離を取りすぎだ。いつもより遠い！

銀三③ ああ、すいません！（キが入る）

龍之介③ きっかけだ！ いまだ、転がせ！

銀三③ えっ！ ですが、距離が！

龍之介③ 今がきっかけ。銀三今だ！

銀三③ いいですか、転がします！ それ！

龍之介③ ああ！ 馬鹿！ 強すぎる！ 止まらない！

銀三③ 師匠！

龍之介③ 舞台から落ちる！ 助けて！

銀三③ 師匠が舞台から、落っこちた！

龍之介③ 助けて！

銀三③ 師匠！

男女衆 ギャー！

女⑤・客 又々客は驚いて

上手の客 ウワー！

男①・客 気味が悪いと蹴っ飛ばす！

龍之介③　　ウワッ！
男③・客　　今か今かと待っていた！
女③・客　　面白しろがって我も我もと！
男②・客　　やりだした！
龍之介③　　ギャッ！

男女衆 ♪

一兵衛さんが芋切って
二兵衛さんが煮て食べて
三兵衛さんが酒飲んで
四兵衛さんが酔っぱらって
こりゃあ！

龍之介③　　銀三！ー

銀三③　　師匠！ー

龍之介③　　助けてくれ！ーグアー、銀三ー！

銀三③　　どいて！通して下さい！やめてください！

龍之介③　　うああ！ー助けて！ー

銀三③　　師匠！ーお願いです、どうか通して！師匠！ー

男女衆　　再び龍之介の首を抱えて楽屋へと！

銀三③　　どなたか、お願いです！お医者さんを呼んで下さい！師匠が蹴飛ばされてつつ

かれました。どうか急いでお医者さんに！どうぞ助けてください！お願いです。ど

うぞ：師匠。もう大丈夫！気をしっかり、師匠！ー

龍之介③　　カクッ！

銀三③　　師匠、師匠！ー

女①　　小屋主さんが現れて。

小屋主　　銀三さん、ちよつと…

銀三③　　小屋主さん、申し訳ありません！とんだ大騒ぎになっちゃって。私がすっかりして
いないばかりに、つい手元が狂いまして…、こんなに離れちゃいけないって！そし
たら師匠が、誠に申し訳のないことを！

小屋主　　これ、とつときな。

銀三③　　何です、これ？…えっ！お金じゃないですか。

小屋主　　いいから、黙ってとつときなさい、お小遣いだ。

銀三③　　小遣い？

小屋主　　…（去って）

銀三③　　…小屋主さんが、小遣いくれた？…えっ！

男女衆

りんごなる木も冬の日

雪に埋もれて一休み
やがて芽の出る時を待つ

ブリッジ 龍之介③銀三③ ↓ 龍之介④銀三④

龍之介④ …銀三。

銀三④ へえ！

龍之介④ 小屋主さんから、何かいわれなかったか？

銀三④ 別に…

龍之介④ 何を隠してる！ 何かいわれたんだろ、どうなんだ？

銀三④ ええ…

龍之介④ 銀三！ 次は何をするつもりだ？

銀三④ はい…！

女② それから銀三は小遣い欲しさに、三度に一度は、転がす手元が狂う様になった！

男女衆 三度に一度 手元が狂う！（銀三に投げられる龍之介）

龍之介④ 銀三！

銀三④ ……

男女衆 ♪（「人生一路」のような感じで歌う）

小屋主（歌の途中）時がたてば、あきがきて他の芝居小屋へと客足がとうのいた。このままじゃ、芝居小屋は潰れてしまう。はてさて…

男女衆 ♪（「人生一路」のような感じで歌う）

小屋主 銀三さん、ちよつと。

銀三④ へい。…何か？

小屋主 この芝居小屋のやぐらには、以前から東の蟠龍が住んでる。

銀三④ ええ？ やぐらに東の蟠龍？

小屋主 蟠龍というのは天に昇れない、小さな龍のことだ。

銀三④ ええ…

小屋主 これを、このままほおっておくという法はない。…なあ銀三さん。

銀三④ ええ、でも旦那…

小屋主 龍はね、ぎよくを噛むと大きくなるんだとき、不思議だね。

銀三④ はい？… 玉をかむと龍は大きくなるんですか？

小屋主 秋田の人たちはえらいね。祭りで人を集めるんだそうだ。

銀三④ ええ…

小屋主 秋田にね、竿灯という祭りがあつてね。長い竿の先にちようちんをいくつも付けて、それを掲げて練り歩くんだそうだ。それを見にわざわざ遠くから人がやってくるんだってね。秋田の人はすごい。

銀三④ はあ…、ええ、それが？

小屋主 首がね、ぎよくだとしたら、…ねえ銀三さん。

銀三④ ねえ、あの：

小屋主 首、玉。これをこのままほっておくべきだろうか、ねえ。銀三さん。芝居小屋の主

人なんて言ったって、所詮お客様次第なんだ。客が集まらなきや小屋は続けられない。下足番でさえ女房子供がいてさ、みんなでおまんまいただくんだ。何もかもお客さまの足次第。こつちを向いて貰えないとまあ、そんなものだ。秋田の祭り、いや秋田の人はえらい。たいしたものだ。(去る)

銀三④ 待つてくださいよ、旦那。旦那！…

男女衆 そんなこんなで日にちが過ぎた。

朝顔は 馬鹿な花だよ

根のない竹に 命枯れてもすがりつく

龍之介④ …おい銀三。蟠龍のことな。

銀三④ へい？…

龍之介④ 天に昇れない龍とは、お笑いだなまったく。

銀三④ ええ…

龍之介④ 東の蟠龍とはどんな面してるのか、一度拝見させて貰おうじゃないか、ええ銀三！

銀三④ ええ！…

龍之介④ うわさを知らないとも思ってたか！ ええ？…

銀三④ えっ？…

龍之介④ 俺を長い竿にくくり付け、馬鹿な龍に追わせる出し物の話だ！

銀三④ 何ですそれ！？…

龍之介④ おいらを棹にくくってよ。天に昇れない半人前の龍に追わせる出し物のことだよ！

銀三④ 誰が？

龍之介④ お前じゃないのか、銀三！

銀三④ えっ！

龍之介④ 小屋主もたいそう喜んで、世間はその話でもちきりだそうだな。意気地のないのは龍之介、俺一人だよ。

銀三④ まさか…

龍之介④ (笑う)…やつてみせようじゃねえか。龍との大立ち回り。こんな芸ができるのはこの俺より他に誰ができる。

銀三④ 師匠！

龍之介④ さあ、東の蟠龍！ やぐらみたいなどころに隠れてないでこつちへ出てこい。この俺がためえの面見たくしてお出ました。悔しかったらこの首食って、見事天に昇ってみろ！ 出来るか腰抜け！

銀三④ 師匠！

女①・客 銀三が龍之介の首を竿に吊るして、天に突き出す！

女②・客 屋根裏に住み込んでどれほどたったやら。

女③・客 やぐらにへばりついたる東の蟠龍。

女⑤・客 龍之介の大声に、目をさます。

龍之介④ これか？ 銀三！ これか？ ほら、どうした半人前。たつのおとしごでもあるまいに、
威勢よく飛びかかってこい！ グアー！
男女衆 ブラリチヨイチヨイ 舞踊る
女⑥・客 龍之介が「きつ」と見栄をきる
女①・客 首をぎよくと思つてか、東の蟠龍「グアッ！ー」とばかり追いかける。

暗雲垂れ込める芝居小屋で、首と龍の大立ち回り(殺陣四 ダンス六)

男女衆 一口噛んだら東の蟠龍の体がおおきくなった

二口噛んだらもーつとなつた 小屋の中は雨風嵐

男①・客 興行は大あたり！

女①・客 大入り満員 人の波！

女②・客 満員御礼 札止めだ！

男① 日本を照らす お日様も

女③ 東に曇れば 風となる

女⑦ 西に曇れば 雨となる

女⑥ 千石積んだる 船でさえ

女⑤ 風の吹きよで 出て戻る

銀三④ こつちだ、こつちだ！ なにやつてるんだこの馬鹿龍！

龍之介④ あまり揺ると、舌を噛む！

銀三④ これっ！

龍之介④ そんなに近ずけるな！ 危ない！ 銀三危ない！

銀三④ ええい！

龍之介④ 振り回すな！ 銀三！ 目が回る！

銀三④ ほらっ！ どうした！ もっと勢いよく動け！

龍之介④ 銀三！ 近い近い！ 離せもつと！

銀三④ 師匠！ 客は大喜びです！

龍之介④ よせ！ ああ！

銀三④ ああ！ー 師匠がかじられた！

龍之介④ 痛い痛い！ いたたた！ 銀三助けて！

銀三④ 離せこの野郎！ 離せたら！

龍之介④ そんなに引いたら、鼻が取れる！ 銀三！

銀三④ こんちきしょう！

男①・客 不思議なこともあるものよ！

女②・客 かじる度に 大きくなった！

女①・客 銀三の手元が狂って！

男女衆 ガブッ！

女⑤・客 手元が狂って！
男女衆 ガブッ！
女⑥・客 噛みつかせること二度三度！
女⑦・客 そのたび龍之介 傷だらけ！
男①・客 東の蟠龍 段々でかくなり！
女①・客 りっぱな髭も生えてくる！
女②・客 そのうち動きが鈍くなり
男③・客 龍之介の首なんか
女⑤・客 見向きもしなくなつてまつた！

男女衆

盆と正月 一緒に来たら
こたつ抱いて寝て かやかぶる

男①・客 どうした！ でかくなつた龍とすつかりなれ合つてるじゃねえか！
銀三④ ！
龍之介④ ！
女①客 おいおい！ 木彫りの龍か！ 動かねえぞ！ 起こせ起こせ！
女②・客 どうしたのよ！ いくらあおつたつて、簀の子に張りついて下りてきやしないよ！
女③・客 どうした！ ゆすれゆすれ！
女⑤・客 しつかりやれ！ しつかり！

銀三④ どうです！ 師匠！
龍之介④ ほれ！ 起きろ龍！
銀三④ 師匠！ もつと大きな声で！
龍之介④ わっ！ 目を覚まさないか！
銀三④ 突つついてみましようか！
龍之介④ 俺をぶつけるんじゃない！ 銀三！
銀三④ ほらっ！ どうした！ 起きろつたらこの！
龍之介④ 銀三！ 鼻先に、よせ！ 危ない！
銀三④ 師匠！ 鼻をがぶりとやつてください！
龍之介④ 銀三！ ああ！
銀三④ 目を開けた！ 噛みついて！
龍之介④ よせよせ危ない！ 銀三銀三危ない！
銀三④ これっ！ どうだくやしかったら追つて来い！
龍之介④ ぶつけるな！ ぶつけるな！
銀三④ 師匠！ がんばつて！
龍之介④ 銀三！
男女衆 時がたつてあきがきた。

小屋主 銀三さんちよっと。

銀三④ へい。何か？

小屋主 屋根裏の、龍のここね。

銀三④ 龍の喉がどうかしましたか？

小屋主 龍の喉に逆鱗(げきりん)という所があつて、それを触られると龍は怒って触った奴を、食い殺してしまうのだそうだ。

銀三④ ええ？

小屋主④ この喉のところに…

銀三④ 逆鱗。

小屋主④ このところ。逆さうろこ。

銀三④ へえ？

小屋主④ そこを、触られるのがいやなるとき、龍は。

銀三④ …で？

小屋主④ だもんで、めつたに天の神様とて触らないんだとき。独り言、独り言だよ、銀三さん。で？ どうしろとおっしゃるんですか？ ねえ、旦那… (小屋主去って) 旦那！ …

銀三④ ♪

空行く雲の色みても

谷間に流れる水みても

秋の深さを思わせる

一人で眺める峰の月

龍之介④ …銀三、何だ？

銀三④ えっ？

龍之介④ …なにを考えてる？

銀三④ 別に！…へい。

龍之介④ 隠してないで、いっちまいな。

銀三④ …ええ、実は龍のことなんで。このところ。

龍之介④ 龍の喉がどうした？

銀三④ 逆さうろこ、逆鱗になつてるんだそうで。

龍之介④ 急所か？

銀三④ で、そこを触られると龍の奴。大暴れするんだそうです。

龍之介④ 銀三、おい銀三…。

銀三④ えっ？

龍之介④ まさか、それをやらせようなんて、考えてるんじゃないやあ、ねえだろうな。

銀三④ とんでもない！

龍之介④ (間) …よし、分かった！これで又一つ当てられるぜ。銀三、支度しろ！

銀三④ 師匠！

女②・客 鳴り物入りの宣伝で 押すな押すな客の入り

女①・客 命懸けたる 大立ち回り
女⑦・客 龍の逆鱗触り 怖い見たいで集まる客に
女⑥・客 龍之介 さまあ見ると舌を出す
男①・客 銀三 晴れの舞台に気もそぞろ
女③・客 どうらんべったり 塗りたくり
女⑥・客 きんきんぎらぎら 衣装をまとい
女衆 やんやの喝采 進み出る

男女衆

高い山から 田のなか見れば
見れば田のなか 稲ばかり

龍之介④

さあ！ いくぞ銀三！

銀三④

へえ！

龍之介④

…そっと、近づけろよ。そっとだ銀三！

銀三④

…へい！

龍之介④

ぼけ龍、この首がどんな味だか試せるか。

銀三④

いいですか、師匠！

龍之介④

龍の喉、ここいらか…

銀三④

逆鱗ですよ…

龍之介④

急所だな。…なんでここか、ようし！

銀三④

さあ、そこを触って下さい師匠！

龍之介④

ハハハ、銀三！ 手がない。ぐっと伸ばせ！ ここだ銀三！

銀三④

いきます！…それ！

龍之介④

銀三！ もつとだ！

銀三④

師匠！ 思い切って噛みついて！

龍之介④

ガブッ！

男女衆

よされ駒下駄の 緒が切れた
たてて間もなく 又切れた！

男衆

よくもおいらの喉に触ったな！

女衆

東の蟠龍は「グワー」と両の目を開けて！ 逃げる龍之介を追いかける！

逃げ惑う客の中を暴れる龍(殺陣五 ダンス七)

龍之介④

銀三！ 早く逃げろ！ 早く！

銀三④

たすけて！

龍之介④

やぐら！ やぐらの所に隠れる！

銀三④ へい！

龍之介④ 龍がやぐらに巻きついた！ 回れ回れ銀三！ そのままぐるぐる回れ！

銀三④ 師匠！

龍之介④ 龍の重さでやぐらが倒れる！ 銀三逃げろ！

銀三④ こっちに倒れる！

龍之介④ 銀三！ よけろ！ 銀三！

銀三④ ウワー！ 倒れる！

龍之介④ 棹を捨てるな、棹を！ 自分だけ逃げるんじゃない！ 戻ってこい銀三！ 銀三！ 龍に、龍に食われた！ 銀三！

男女衆 その時龍之介！ 鴨の河原に釣り人を見た！ 一口召し上がれ！

釣り人（銀三④） 一口召し上がれ。いえですか？（笑う）

龍之介④ ！ 銀三！

凄まじいカミナリ

（民舞八）

男女衆 ♪

子、牛、虎、卯、龍、巳、馬

ネズミが悲しそうに空見上げ

天を泳ぐ龍にこういうた

なしておいらにや雲がねえんだべ

子、牛、虎、卯、龍、巳、馬

ネズミが悲しそうに空見上げ

天を泳ぐ龍にこういうた

なしておいらにや角がねえんだべ

子、牛、虎、卯、龍、巳、馬

ネズミが悲しそうに空見上げ

天を泳ぐ龍にこういうた

なしておいらにや牙がねえんだべ

村人一同ずらりと並び

田村

「あの声でトカゲくらうかホトトギス」、ねずみの銀三に乗せられて、西の蟠龍の生首をかじって天に登った東の蟠龍。このようにして十二支の中の龍は、神様の怒りがかってこの世の動物の中から外されましたそうな。それでも未練があると見えて、時折地震、カミナリで暴れるんだそうでございます。「明日ありと思う心のあだ桜」まあ人生についてこんなものかと悟った西の蟠龍。めでたく昇天したということで、龍神様ひとつ怒りを納めてもらいますこと、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

一同 どうぞ、よろしくお願い申し上げます。
田村 これで奉納の義は無事終わりでございます。
一同 奉納の義は無事終わりでございます。

田村 またもこの一年間、皆が無事過ごせますことよろしくお願い申し上げます。
一同 この一年、無事でありますように。

田村 この村のものの生活は、となりの核廃棄物備蓄基地と建設費一兆六千億円の核燃料再処理工場に依存いたしてまいりました。灯油の値上がりは年金暮らしの年寄りにはこたえます。生活第一。まずは食べていかなければなりません。僭越ではございますが、村民を紹介させていただきます。ご在所村消防団副団長の運送屋のシゲさん。放水ノズル担当の定食屋は杉本さん。ホース二番手は保険代理店のキミちゃん。

三番手は婦人会副会長のカラオケバーのスミエさん。ご在所村高齢者・児童避難誘導安全係の隊長は民宿のレイコさん。ホース四番手はベンリスパーのヨシコさん。文具・雑貨の店のシホさんは吸水ホース担当。それと障害物除去担当は村営小型巡回バス委託運転手のアヤコさん。(レンタルビデオのカメ、紹介忘れ)他この通りずらりがん首揃えて心一つになって龍神さまの社をお守りいたします。核廃棄物は地中深く飲み込んでもらって一安心。安全第一。一同この一年、無事でありますように。どうぞ龍神さま暴れないようにお静かに願います。龍神さまの社をお守りいたします。どうぞ今の民百姓を静かに見守ってくださいさるよう。

一同 どうぞ今の民百姓を静かに見守ってくださいさるよう。
シゲ 高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定の調査候補地として応募いたします。なに
こともうまくいきますように。

一同 なにごともうまく行きますように。
田村 恐山からむつをくぐって小川原湖へと抜ける龍脈。その龍の龍穴に当たる我が村が、
天の「気」で益々繁栄をいたしますことここにお祈りいたしまして謹んで、幕とさせ
ていただきます。

一同 その天の「気」で益々繁栄をいたしますこと、ここにお祈りいたしまして謹んで幕と
させていただきます。

全員 ♪ (手拍子)

一年経った 一にたちばな見事に咲いて
二年経った 二にかきつばたこれ又咲いて
三年経った 三に下がり藤見上げれば
長く咲く花 くるみの花よ

四年経った しにしのだのしし牡丹
五年経った いつついやまの千本桜
六年経った 六つ紫色好く染まる
お前行くなら わしやどこまでも

奉納舞台終了歌が終わって、着替えながら賑やかに

シゲ 終わった終わった。
レイコ 三年に一遍でいいんでないの。
シゲ んだね、稽古も大変だしさ。
アヤコ 若くないとできない。
スミエ ネットの時代に、この村にアクセスがあるんだべか。
シホ ユーチューなんやらで発信したらどうで。
田村 村おこしの一環としてみんなも賛成したでないの。
カメ 何で、おらの紹介されるの。
ヨシコ 認知症でないの。
杉本 さあ、これからカラオケで盛り上がるべし。
キミ しげちゃん？ 子供連れて母ちゃん出たって聞いてたけど？
スミエ 個人情報が簡単にリークされてる、村長。

地響きとカミナリ音 舞台が激しく揺れる

杉本 地震、カミナリ？

遠くからサイレンの音

カメ あれっ、ずいぶんと光ってる。あれ、核燃備蓄のセンターの方でないですか？
シゲ 核備蓄の基地？
田村 うん。
キミ また、光った。
ヨシコ あんなに明るくなって。
スミエ 火の手が上がってる…
キミ 消防団。いかないとまずいんでないですか。離れてても。
田村 んだな。消防団副団長は運送屋のシゲさん。
シゲ 活断層。
シホ カツダンソウ？
田村 簡易放水ポンプの水圧管理担当は青年団団長のレンタルビデオのカメちゃん。
それぞれがうなずいたり、田村にやめるようにいおうとするが

田村 簡易放水ポンプ二番手は保険代理店のキミちゃん。
キミ んで、子供連れてかあちゃん逃げたんだ。
田村 三番手はスミエさん。
スミエ 嘘！
田村 御在所村高齢者・児童避難誘導安全係の隊長は民宿のレイコさん。
レイコ 地面がずれた？
アヤコ 地面が？

田村 タンク給水ポンプ担当は定食屋の杉本さん。
杉本 地割れ！
アヤコ 地面が割れた？
レイコ 龍神さま…、西の幡龍の恨みだすべか。
スミエ …、一口召し上がれでござい。
他全員 えっ？

警報のサイレンが鳴り響く

全員 ……

音楽の中 警報のサイレンが鳴り響く
ご在所村の面々。顔を引きつらせての消火作業。(ダンス)
中央の賽銭箱に雪が降って。

―幕―

参考資料 「青森県の民謡」 青森県教育委員会